海外の話題

コロナ下の香港生活　～トレイルを通じた新たな発見～

農林中央金庫　香港駐在員事務所長　浅田　健一

香港は 2019 年 6 月に起きたデモ、昨年 1 月から続くコロナと約 2 年間、政治社会情勢が大きく変化しているので、日本の読者の中にはネガティブな印象を持つ方もいるものと思います。しかし、当地に駐在し生活すると、コロナによる規制があるものの、日本産食品が街にはあふれている等生活に困ることは全くありません。執筆時点（3 月 22 日）直近のコロナの感染状況は、1 日当りの新規感染者は 8 人、感染者は累計 11,379 人、死者は累計 203 人です。市民を対象とするワクチン接種も始まりました。3 月 10 日過ぎに集団感染が出て、1 日当りの新規感染者が 60 人に増加しましたが、落ち着きつつあります。

コロナ以前、週末はゴルフ、ソフトボール、一時帰国して家族と過ごす、また自らの視野を広げるために東南アジア等に短期旅行をしていました。約 1 年前にゴルフ場やソフトボールのグラウンドが規制で使用停止となり、週末をどう過ごすかを考えていた時に、仕事でもお世話になっていた当時の日本人駐在員から「トレイル一緒にやらないか？」と誘いを受けました。誘いを受けた週末の日曜日に普段履いているスニーカーなど軽装でトレイルに行ったら、小雨交じりで時折滑りそうになりながらも約 20km 歩き、これは面白いと感じました。その後、コロナの状況を考慮しながら、週末はトレイルとゴルフを中心とする生活を送っています。1 日で最大 50km 歩いたことや、深夜トレイルも経験しました。

香港の総面積は 1,110 ㎢、人口は約 750 万人。面積は東京都の約半分、札幌市とほぼ同じ、人口は東京都の約半分、札幌市の約 4 倍です。その約 40％が郊野公園（カントリーパーク）などで、自然豊かな都市でもあります。

1971 年から約 10 年間務めた総督が大のハイキング好きだったこともあり、自らの名前を冠した 100km に渡るロングトレイル「マクリホース・トレイル」を完成させました。その後、3 つのロングトレイルコース「ランタオ・トレイル」、「ウィルソン・トレイル」、「ホンコン・トレイル」が整備され、これらを総称する「香港四大トレイル」は総延長約 300km あります。さらに、四大トレイル以外にも多数のトレイルコースがあり、それらを含めると総延長は約 600km を超えると言われ、香港市民のレジャーの 1 つになっています。日本からのトレイルツアーもコロナ以前は定期的に開催されていました。香港政府は 2021-2022 年度予算で 5,500 万香港ドル（約 7.7 億円）を用意し、郊野公園のハイキングコースを改善することを発表しました。

香港には山が 300 超あり、最高峰は大帽山の標高 957m、個人的に一番眺望がきれいと感じ香港の槍ヶ岳と言われるシャープピークは標高 468m です。日本と比べると標高が低く、

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます

住宅地からも遠くないので、アクセスが容易なことも利点です。

トレイルレースも頻繁にあちこちで開催されています。最も過酷なレースは香港四大トレイルを 60 時間以内に完走しなければならないもので、昨年 6 月に NHK がそのドキュメンタリー番組を放映しました。個人的にも昨年 11 月にマクリホース・トレイルを 48 時間以内に完走するレースに参加予定でしたがコロナで中止となり、代わりに開催された 1 か月以内に 4 つのステージに分けてチャレンジするイベントに参加し、2 月から 3 月にかけて計 4 日、約 26 時間 30 分で完走できました。

トレイルを通じて、郊外に行く機会が増え、あらゆる交通機関に乗り、香港の歴史、地理、素晴らしい景色、市民生活を知ることができ、さらに香港が好きになりました。香港市民の多くは郊外の住宅地に住んでいるため、トレイルの合間に住宅地の駅周辺にあるショッピングモール、商店あるいは飲食店を訪れると、市民生活や最近の流行を感じ取ることができ、食関連の仕事をする上でも役立っています。

コロナ収束後には、多くの日本の皆様に香港に足を運んでもらい、食のみならず自然にも触れてもらい、香港の良さを知ってもらえることを切に願っています。

（写真1）名峰シャープピーク

（写真2）公私共々仲間である金築全農香港事務所長とのトレイル（向って左が筆者）

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます